

「使ってはじめて リサイクル」を実現



ウツミリサイクルシステムズ株式会社

PETボトルの回収から 最終製品化まで

回収されたPETボトルを原料に、再生PET原料や再生PETシート、あるいは包装容器等の製造を行うウツミリサイクルシステムズ。「国内では、リサイクルといえば回収止まりで、『あとは誰かがやってくれる』という考えが強い。しかし本当は、再生品を使ってはじめてリサイクルになる。だから最終製品の成形まで行う」。同社は平成5年の設立時には、国内初となる一貫生産体制をすでに確立していた。

「作る」よりも「売る」が 難しいリサイクル製品

PETボトルを回収しフレーク（薄片）にするのは廃棄物産業、それをシート等にするのは装置産業、シート等からの製品成形は職人産業と、本来は各段階で全く文化が異なる異業種。それらを一つのラインに並べることで非常に困難だった。だからこそ、それを可能にした上に成り立つ同社の一貫生産体制自体が、他にはない大きな強みとなっているのだ。



PETフレーク

内海正顯社長が一貫生産体制に

こだわったもう一つの理由は、リサイクル業で一番難しいのは作るのではなく売るからだ。そのためにも一貫生産して成形品を示し、「リサイクル」をお客様にアピールしていきたいと考えた。ただ、同社の設立当時は、世の中にまだリサイクルに対する意識も製品も浸透していない頃。そこで、例えば食品の包装容器であれば、殻に包まれた卵や皮の付いた果物等、リサイクルケースでも抵抗が少ない用途を選択し、販路を見出ししてきた。「選球眼ならぬ選球眼です」と、内海社長は笑う。

「スーパークリーニングプロセス」で 残留液体を完全除去

平成19年より成果を出し始め、ウツミリサイクルシステムズの大きな力となっているのが、約4年前に設置した「固相重合（こそうじゆうごう）装置」だ。「重合」とは、化合物同士が分子レベルで結合する化学反応の一つで、その中でも、固体状態のまま結合が進むものを「固相重合」という。フレーク状のPET樹脂を「固相重合」させると、粘度が増し強度が上がるばかりでなく、ジュースや薬品といった、廃棄PETボトル内の残留液体を完全に取り去ることができるのだ。別名「スーパークリーニングプロセス」とも言われる所以であり、これによってより高い安全性が確保できたことも、同社の大きな強みとなった。

「最初の3年は失敗ばかりで試行錯誤の毎日だった」と振り返る内海社長。しかし、国内におけるすべて

の回収ボトルの約半分が海外へ流出している現在、海外のリサイクルPET製品に勝つためには、「試行錯誤を繰り返しながらも、原価を下げ、質の高い製品を作って勝負するしかない」と語気を強める。「容器包装リサイクル法」が制定された平成7年以降は、法律に基づいた効率の良い回収が可能となった。現在では、泉南市にある2万m²規模の工場を中心に、年間で約2万5千tの使用済みPET樹脂を加工し、「本来のリサイクル」を実現し続けている。

主な事業内容

PET樹脂リサイクルに関する事業（回収PETボトルを原料とした最終製品の製造、PETコンパウンドの製造、A-PETシートの製造・販売）等



内海正顯さん
代表取締役

ウツミリサイクルシステムズ株式会社

Company
Profile

住所 / 〒540-0026
大阪府大阪市中央区内本町1-2-15
メンズファッションセンタービル3F
設立 / 平成5年7月
資本金 / 3億4,150万円
従業員 / 130名（平成21年1月現在）
TEL / 06-4791-5555
FAX / 06-4791-5556

大阪
13

<http://www.utsumi-k.co.jp/>